

ベスト・サイクリングプロジェクト2024 最終審査3組エントリーシート

令和7年2月21日
北海道サイクルルート連携協議会セレモニー



- **No.4 北海道TOKACHI
サイクルツーリズムルート協議会**
『トカプチ400セクション分けの検討およびPRの実施』
- **No.9 オロロンライン・サイクルルート連絡会議**
『オロロンライン・サイクリスト応援カー』
- **No.10 道南サイクルツーリズム推進協議会**
『どうなんサイクルツーリズム地域創生推進事業』

最終審査進出プロジェクト No.4 トカプチ400

🚲 ベスト・サイクリングプロジェクト2024

エントリー様式

別紙1

プロジェクト名称 トカプチ400セクション分けの検討およびPRの実施

ルート協議会名称 北海道TOKACHIサイクルツーリズムルート協議会

(1) プロジェクト概要

① 活動目的・目標

トカプチ400は約400kmと長大なルートのため、初中級者の方から「どのように走行してよいかわからない」という声があった。そのため、サイクリストの裾野を広げることを目的とし、長大なルートを8つのセクションに分けるとともに難易度を設定することで、初中級者にも楽しみやすい走り方を提案するセクション分けを実施した。

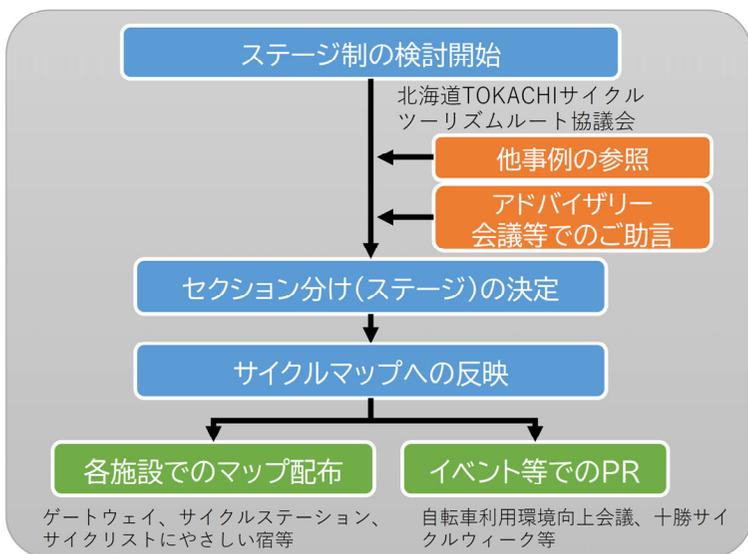
② 具体的な活動内容

- ・スイスモビリティのステージ制やアドバイザー会議等でのご助言を踏まえ、1日で無理なく走ることができる走行距離や立ち寄りポイント、宿泊施設などの立地状況を踏まえセクション分けを実施。
- ・8つのセクションをルートマップに掲載し情報提供を実施。

③ 活動期間 2024年度～

④ 活動場所 トカプチ400全域

(2) プロジェクト活動体制



(3) PRポイント

① 創意工夫した点

- ・初中級者の参加を促しやすいよう、各セクションの難易度や立寄スポットの紹介とともに、複数日での走行にも配慮して起終点は宿泊施設が必ず位置するセクション分けとした。
- ・また、複数回に分けてトカプチ400を走行してもらうことも想定した区分けとすることで、十勝へ再訪（リピーターづくり）するきっかけとなることを目指している。

② 苦労のあった点

- ・走行距離とサイクリスト受入れ可能な宿泊施設を踏まえた区間設定。

③ 活動による効果

- ・トカプチ400の新たな楽しみ方を提案することができた。
- ・会員企業が本取り組みをベースとした誘客事業（トカプチ400パスポートによるスタンプラリー）を開始。

④ 今後の課題・活動予定

- ・セクション分けのさらなる周知や、セクションごとの個別のPRを行い、サイクリストの裾野を広げる取り組みを継続したい。



各セクションの紹介

トカプチ400MAP抜粋(裏面)



イベントでの紹介



最終審査進出プロジェクト No.9 オロロンライン・サイクルルート

🚲 ベスト・サイクリングプロジェクト2024

エントリー様式

別紙1

プロジェクト名称 オロロンライン・サイクリスト応援カー

ルート協議会名称 オロロンライン・サイクルルート連絡会議

(1) プロジェクト概要

① 活動目的・目標

- 幅広い自転車ユーザーに安心してサイクリングを満喫いただけるよう、シーニックバイウェイ萌える天北オロロンルートが、**道路・河川巡回企業の巡回パトロールカーを「サイクリスト応援カー」として任命**。この「動くサイクルステーション」が広域的なサイクルルートの安全・安心の下支えに。
- 「オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト」の一環として、オロロンラインに訪れたサイクリストの受入環境の向上を目的に、来訪者の増加・観光消費の促進・地域振興・おもてなし力強化が目標。

② 具体的な活動内容

官貸車及び道路巡回7社、河川巡回2社の社有車に自転車用工具を搭載し、トラブル時に工具を貸与する。

③ 活動期間

毎年5月中旬～10月末（令和2年より活動開始。R6年度で5か年目）

④ 活動場所

増毛町～天塩町の国道231号、232号（オロロンライン）、留萌川・天塩川周辺

(2) プロジェクト活動体制



(3) PRポイント

① 創意工夫した点

- 巡回企業と連携し、**サイクル工具説明会**を開催したり、**工具説明ムービー**を作成することで、サイクリストに対するおもてなし力を備え、受入環境を強化
- パトカーに掲示するマグネットステッカーは、**他地域でも波及するように地域ごとでカスタムしやすいデザイン**とした。



- 「サイクリスト応援カー」の取組を内外にPRすることと巡回員のモチベーションアップのために、シーズン内の時期には**出発式を開催**。



- 巡回員の声により生まれた「自転車御守」※裏面は応援カーの取説
- 例年、シーズン終了後での**振り返り会**にて、改善点を次シーズンに反映し**活動を進化・深化**（R4自転車御守開発・R5工具説明ムービー作成・R6サイクル工具説明開催）

② 苦労した点

活動に協力いただくため、一社一社丁寧に説明した点

③ 活動による効果

- オロロンライン・サイクルルートの自転車走行の安全性の向上
- これまでサイクリストに関心なかった事業者や団体においても、サイクリストへの理解度が体感を通して高まった。
- 令和6年度から「サイクリスト応援カー」が全開発建設部にて展開！

④ 今後の課題・活動予定

国道以外の道路でも同様の取組を拡張

最終審査進出プロジェクト No.10 どうなん海道サイクルルート

🚲 ベスト・サイクリングプロジェクト2024

エントリー様式

別紙 1

プロジェクト名称 **どうなんサイクルツーリズム地域創生推進事業**

ルート協議会名称 **どうなん海道サイクルルート（道南サイクルツーリズム推進協議会）**

(1) プロジェクト概要

① 活動目的・目標

道南地域でのサイクルツーリズム推進は歴史・文化的な地域資源を活かし観光活用するために移動手段が脆弱な地域において、自転車を通じて多様な機関や地域企業と繋がり、活性化を図ることで、地域エリアの相互的な発展と課題への挑戦、地域の未来を創ることを目的とする。

② 具体的な活動内容

サイクルツーリズムの受入環境整備していく一方で、それを地域の魅力と繋げていくPRの方向としてスポーツ大会誘致を希望の一つとしていた。エリアがゲートウェイが多く、台風が少なく気候が安定している事がキーワードとなり今年、エリア内でのトライアスロンの最高峰の大会**アイアンマンジャパンみなみ北海道大会の開催が実現**。関係機関と協力し、地域の機関の調整協力・運営補助などを行い、開催実現を支援。地域の認知向上に繋がった。

③ 活動期間

令和元年に自転車事業を始め、企業等との連携等で地域創生とともに活動を進めてきた。アイアンマンジャパンみなみ北海道大会は当会では令和5年から具体的な支援を開始。来年度の開催は決まっているが、地域目標としては10年程度の開催継続を期待したい。

④ 活動場所

アイアンマンジャパンみなみ北海道大会のバイクコースは茂辺地ICから木古内ICの高規格道路を使用。「どうなん海道サイクルルート」全体を練習エリアとしてPR。

(2) プロジェクト活動体制



(3) PRポイント

① 創意工夫した点

アイアンマン大会における開催地及び周辺地域の理解・支援・協力体制の構築とPR。自転車での夜間のラン先導のため日中、事前試走した上で本番支援に臨んだ。

② 苦労のあった点

予定開催日に向けて調整を進めたが地域課題により停滞。地域創生の理解のためアイアンマン大会について当会講演や地域PRフォト展示を実施。開催地だけではなく周辺地域から多くの理解と賛同・応援を得た。

③ 活動による効果

当会がサイクルツーリズムの理念として掲げてきた地域創生の積重ねが実践的に活かされた。その1つが道南いさりび鉄道貸切車両にそのまま自転車を搭載した列車運行。企業・交通機関との連携活動地域理解等継続してきた活動が土台となりアイアンマンジャパンみなみ北海道大会との共創になった。大会は完走者が93.4%、大きな事故もなく大成功で終了。バイクコースに関しては高規格道路活用は国内でも珍しく、大好評。3000人以上の集客と最低3泊4日の大会行程での地域経済効果も非常に大きかった。当会では地域景観の写真を展示し地域認知向上の効果も図った。

④ 今後の課題・活動予定

- ・今年度の課題を整理し、来年度開催に向け各機関と情報共有を図っていく。
- ・次年度は一歩進んだ連携や地域経済向上の協力を考慮。長期滞在をPR。
- ・バイクコースがICだったことから応援が限られたので応援スペースを今後考慮。
- ・地域の未来に繋がる事業として重視。

* 地域PR・フォト展示 *



▲アイアンマン大会当日15日 木古内小学校グラウンドに設置
▲アイアンマン大会翌日16日 表彰式 スポーツセンター設置

* ボランティア協力 *



▲ランコース（木古内）の事前試走会開催・視察会参加
▲ランコース（木古内）の自転車での夜間先導

* コース・道南いさりび鉄道試行実践活用・高規格道路 *



▲アイアンマン大会で鉄道搭載実践（写真2024ツアー）
▲大会での茂辺地-木古内ICコース活用（全国レア実績）